

団体名・尻別川の未来を考えるオビラメの会（ニセコ町）

事業名：絶滅危惧種イトウ尻別川個体群の繁殖地の保全活動

事業概要：イトウ繁殖期に合わせ、24 時間体制で繁殖地をパトロールします。保護活動に支障を来さない範囲で最大限の情報を公開します。訪れる見学者（児童、生徒、一般の方々）に対してフィールドガイドを行います。繁殖期終了後、報告会を開いて成果を発表。情報公開とフィールドガイド、成果発表によって、訪れるみなさんにイトウの魅力を伝え、保護管理の重要性へのご理解を促し、尻別川個体群復元の機運を盛り上げます。

イトウは日本列島に生息するうち最大の淡水魚として知られています。北海道・尻別川はその生息南限ですが、昭和中期以降は自然環境の破壊が進み、何より大切な繁殖環境が失われるなどした結果、尻別川個体群は「絶滅寸前」と判定されるほどの危機に陥ってしまいました。1996 年から復元活動に取り組む私たち「オビラメの会」は、関係機関との協働によって 2012 年春、同水系倶登山川で再導入（人工的に個体を導入することによって再定着を促す試み）実験に世界で初めて成功しました。

この成果を尻別川全域での個体群復元につなげるために、北海道 e-水プロジェクト助成金によって 2013 年度、次の 3 つの事業に取り組みました。

第 1 はイトウ繁殖期に合わせての自然繁殖河川における「見まもり隊」活動です。5 月 1 日から 31 日まで、流域でただ 1 か所だけ確認されているイトウ自然繁殖地で実施しました。地元自治体（倶知安町）や河川管理者（北海道）と協働で適切な見学ルートを新設し、川のそばに簡易ハウスを設置してボランティアによる 24 時間体制の監視を続けました。見学者を含め、延べ 290 人以上が参画し、今季も無事に遡上イトウたちの繁殖環境を保全することができました。

第 2 は、再導入活動を支えるイトウ親魚飼育施設の補修工事です（6 月 9 日）。国際自然保護連合の再導入指針に準じてストック（再導入する個体＝人工孵化稚魚）を生産するため、当会は倶知安町内にイトウ親魚の飼育池を保有し、尻別川個体群の遺伝子を継ぐ親魚を飼育しています。6 年ぶりに本格的な補修工事を実施しました。

第 3 はポケットサイズのパンフレット「ボくら、イトウのレスキュー隊」の発行です（11 月 30 日）。イトウ研究の第一人者で、北海道立総合研究機構の川村洋司さんを監修者に迎え、16 ページ建て、全編カラーで 3000 部を制作しました。来季以降、尻別川を訪れるイトウ見学者（地元小中学校の見学学習など）に無料配布し、イトウ個体群復元の意義を伝えていく考えです。

当会は 2030 年に尻別川イトウ個体群の完全復元を果たす「オビラメ復活 30 年計画」を遂行中です。半ばに差しかかった計画は、みなさまのご支援のおかげでおおむね順調に進んできました。ゴールに向けて引き続き努力していきます。



作成したポケットパンフレット